

1学年通信

Dreams come true

山形県立米沢興譲館高等学校

1学年 第43号

2015.12.10 (木) 発行

平成27年度 第1学年 東京サイエンスツアー (TST) の感想です！

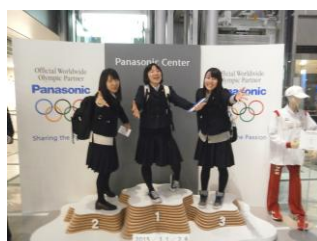
期末考査後の11月29～30日、1年理数科予定者42名がTSTに参加しました。みな素晴らしい体験をして、大きく成長し帰ってきました。また、来年度の新クラスに向けて仲間作りもできた有意義な2日間だったようです。ここで生徒諸君の感想を紹介します。

1組 T. T さん



私は東京研修へ行って、この世界はなんておもしろいんだと感じた。そして、同時に自分の視野が狭いことも知った。私が生まれる遙か昔の風景を知った。今の生活からは考えられない生活がそこにはあった。人類の歩みと共に、それ以外の動物や植物の歴史が積み上げられていた。歴史や宇宙の神秘を目のあたりにすればするほど、ますますなぜ私たち生物は生きているのかと考えさせられた。しかし、こんな疑問も未来を作ろうとしているのを見た時にはどうでも

よくなった。未来は自らの手で作るものだを知った。おそらく未来の姿など誰もわからないだろう。その未来を作れると知った時、感情が高まった。私は、このゾクゾクとした感情を大事にしたい。日々の忙しさになんとなく1日、また1日と過ぎてしまっている。しかし、これでは誰かが作った未来になってしまう。グローバル以上の視野をもち、今の可能性をもっと広げたいと思った。



2組 T. Y さん



このTSTでは、来年同じクラスの人と仲良くなれ、普段は体験できないような科学を学べるツアーだったと思います。バスの移動では自己紹介があり、理数科予定者の独特のテンションを味わえました。英雄先生の「トップをねらえ」が見られなかったのは残念でした。科学未来館で特に印象に残ったのは、深海に行く潜水艦の説明をカマトで説明する外国人と、iPS細胞のブースです。「潜水艦ノ中ハ狭クテ、トイレモナイノデ、オムツヲハキマース。絶対クサイデース。ノリタクナイデース。」と説明していて、とても印象に残っています。iPS細胞のブースで山中伸弥先生の研究室にも行ったことがあるという人にiPS細胞について説明を受けました。腎臓ができない豚に人間の腎臓を作るということに驚きました。iPS細胞の仕方など、詳しい事があまり聞けなかったのが、今後調べていきたい



と思います。

3組 T. M さん



私はこの2日間で沢山の事を学びました。中でも特に重要だと思った2つについて感想を述べたいと思います。1つ目は初対面の人と積極的にコミュニケーションを取り合うことです。博物館では各自興味のある所へ行ったので、自分の行っていないフロアの情報、自分の情報を共有し合い学びを深めることができました。2つ目は、インタープリターさんやそこでボランティアをしている方のお話を聞き、質問をするということです。展示品を見るだけではあまり理解できないものも多く、そういった方々の話を聞き、初めて分かることが沢山ありました。Miraikanでは班の人達に発表する機会があり、短時間でレポートをまとめて人に伝わりやすいように話すのが難しかったのですが、お聞きした内容を伝えることでみんなからの質問も出てきて興味をもってもらえて良かったと思います。最後に、2日間で学んだ理数系の知識は、普段では身につけることのできないものなので大変よい機会だったと思います。また、知識以外にも大切なことを学べ、有意義な時間を過ごせました。



4組 S. H さん



今回の研修で、米沢や山形にはまだ進出していない科学技術を使ったモノに触れることができた。科学未来館では有機ELを使った巨大な地球儀や、人間と瓜二つに作られたロボット、しんかい6500の模型も見ることができた。それだけでも十分に良い経験となったが、班内で発表し合ったことで科学のブースに対する理解も深めることができた。プラネタリウムを見たりと、楽しい時間もあった。リヌーピアでは、体験型のゲームをすることができた。科学の知識も共に学ぶことができ、知識の幅が広がった。最終日の国立科学博物館が個人的に一番楽しかった。動物のはく製や化石のレプリカなど、大好きなモノがたくさんあった。中でもフタバズキリュウの全身骨格のレプリカは、展示の仕方や首の骨のしゅう曲によって、より格好よさが増していた。他にも、脚が横につき出していない世界初のトリケラトプスの全身骨格など、何度見ても飽きないものに出会った。来年のSSHの研究にむけて、自分が本当に興味のある分野を追求することができた気がした。



↑ 国立科学博物館前にて全員集合！

5組 O. H さん



今日のサイエンスツアーはとても充実したものとなりました。1日目の未来館で自分の興味を持ったものについて詳しく調べて、ボランティアのインタプリターという人に話を聞いたりし、グループの人に発表しました。そのインタプリターの人達はすごく楽しそうで、私は自分の好きなことに没頭してみたいと感じました。グループの発表では、「やっぱり理数科だ」と思いました。自分一人だけでなく、いろいろな人と共有することで、理解だけでなく興味も広がるなと思いました。

2日目の科学博物館ではずっとドキドキしていました。タイムマシンで過去に行ってしまったような気分でした。私にとってこの2日間はあっという間でした。まだまだ見足りない、そんな気持ちです。たくさんの方向に興味が行ってしまっていて、いろいろなものに見入ってしまいました。自分の知らないことを知るといっておもしろさを改めて感じました。2年生の時の研究を決める手がかりともなりました。そして来年の同級生たちともたくさん話のできたのでよかったです。



5組 M. H さん

今回のTSTでは普段の生活の中では得づらい貴重な体験をを通して、より一層サイエンスに対する関心・興味を深めることができ、私の中のサイエンスの分野の視野が大きく広がりました。中でも特に印象に残ったのが「リスピーア」と「国立科学博物館」の展示でした。私は今まで物理や数学の仕組みなどを展示で見たことが無かったので、それを体験しながら学べるのはとても新鮮でした。2階の展示が特に興味があって気になる内容だったので、自分でも調べてみたいと思いました。

国立科学博物館では特に化石から進化について学びました。手前のモニターと模型が連動して動いたり、1つ1つに対して深い内容の展示がされていて視覚的にも理解でき、より深い理解につなげることができました。科学未来館で職員で話し合うために展示を見ていたときに、iPS細胞についての展示でインタプリターの方とお話したのも、今行われているようなことに最も近いような内容で、サイエンスで変わっていく未来を想像できました。今回の体験で手に入れたものを基盤としてSSHとしての活動を進めていきたいと思えます。



光の知究儀

クエストギャラリー

